ノダリベンジ

ただの命題ではなく認識を提示するという観点で見えるもの

@sayunu

TwiFULL 札幌言語学ミーティング第20回 (2013/6/28)

大きな問い

- ノダやノデハナイやノダカラはノダという形式を共有していて、多様な用法があるが、本質的に何が共通なのか。一見して共通点がよく分からない。

- その本質的機能から、ノダ表現のいろいろな意味合いをどのように統一的に説明できるか。

今回の範囲

- 主節における**ノダ**（肯定・平叙）、**ノデハナイ**、**ノカ**
- ノダ表現と非ノダ表現の対立
- ノダッタ、ノデハナイカ、ノダカラなどは今回は議論しない。
- ノダとワケダ、ノダとカラダのような対立は扱わない。
  - 多分ワケダに通じるところもあるだろうし、接続助詞ノデやノニ、準体助詞のノ、連体修飾節とも共通性がありそう。
- 終助詞などによる解釈の違いも扱わない（「んだな」など）。

本発表の構成

1.個別用法の記述

- 文脈、話し手の意図、文の内容
- 発話として自然かどうか、どのように解釈されるか

2.統一的説明づけの試み

- 個々の用法の共通点を抽出
- 理論の提案
- 関連する先行研究

3.各性質の説明づけ

1. 個別用法の記述

肯定・平叙のノダの用法分類

✳事柄を受け止める用法（話し手にとっての新情報）

(1)【窓の外を見て】あ、雨が降ってる<u>んだ</u>。（独言的）
(2)私は札幌に住んでいます。—札幌に住んでる<u>んです</u>ね。(会話的)

✳事柄を伝える用法（話し手にとっての旧情報）

(3)【唐突に】ぼく、明日デートな<u>んです</u>よ。
(4)風邪をひきました。雨に濡れた<u>のです</u>。

✳行為指示の用法

(5)早くこっちに来る<u>んだ</u>。

・（吉田1988、野田1997など）

肯定・平叙のノダ（受け止める用法）の性質

判断の既存性

(6)　鳥が{飛んだ / 飛んだ<u>んだ</u>}。

➡ノダ文は、直前に発生した（と話し手が思う; 以下同じ）事象を即座に受け止めてそのまま述べる場合には使われない。発話時点より前からその事象が現実に存在したなら使える。

(7)　【帰り支度をする人を見て】もう{#帰る / 帰る<u>んだ</u>}。

➡意志や予定や運命として定まっている場合にも使える。

(8)　あ、雨が{降ってる / 降ってる<u>んだ</u>}。

➡非ノダ文による発話は「見たままに言った」印象を与えるのに対して、ノダ文では「以前からそうだったのだろう」という対事的な態度が加わる。

肯定・平叙のノダ（受け止める用法）の性質

聞き手と話し手の証拠の差

(9)　A: 私は札幌に住んでいます。
　　B: 札幌に{#住んでます / 住んでるんです}ね。

(10)【濡れて帰宅した人の姿を見て、その人に向かって】
　　あ、雨が{#降ってる / 降ってるんだ}。

➡「聞き手がその事柄を先に知っていて、話し手はそれに比べて不確実な判断しか下せない」と話し手が考える場合、非ノダ文を用いてその事柄を述べることができない。（日本語の非ノダ文による通常の受け止めは、「他の会話参加者と同等以上の証拠で判断できる」という含みを持つらしい。）ノダ文なら可能。

肯定・平叙のノダ（受け止める用法）の性質

話し手の意見を差し挟まない

(11)【機械の取扱説明書を読んで】

a. このボタンを押せばいい。

b. このボタンを押せばいい<u>んだ</u>。

(12) これおいしいから注文してみなよ。— へえ、おいしいんだ。

(13) 今日の運勢は最悪だって。今日は一日ついてない<u>んだ</u>。

➡ノダ文を用いると、他人の言説に対して「無批判に受け入れる」「自分の反対意見を差し挟まない」ような態度を感じさせる発話になる。

肯定・平叙のノダ（伝える用法）の性質

判断の既存性

(14) 僕も参加します。
(14′) 僕も参加するんです。

➡非ノダ文は「発話の際に決心したこと」を述べることができる。ノダ文は必ず「発話以前から思い定めていたこと」として解釈される。

肯定・平叙のノダ（伝える用法）の性質

聞き手の意見を受け付けない

(15) 【引っ越しを拒む子供が両親に対して】僕はここに残る。
(15′) 【引っ越しを拒む子供が両親に対して】僕はここに残る<u>んだ</u>。

(16) 一般の方の立ち入りは禁止されています。
(16′) 一般の方の立ち入りは禁止されている<u>のです</u>。

➡特に反対意見を呼びそうな事柄を伝える場合、ノダ文は聞き手の意見を受け付けずに話し手の主張を押し付けるような態度を感じさせる発話になる。

肯定・平叙のノダ（伝える用法）の性質

納得させようと働きかける

(17) 太陽・月・地球がこのように一直線に並ぶことによって、
地球上から見て太陽が月に隠れて見えます。

(17′) 太陽・月・地球がこのように一直線に並ぶことによって、
地球上から見て太陽が月に隠れて見える<u>のです</u>。

➡「納得させよう」と踏み込んで聞き手に働きかけるような態度。

肯定・平叙のノダの性質

文脈上の疑問に説明を与える

✳ 受け止める用法

(18) 山田さんが来ないなあ。きっと用事がある<u>んだ</u>。

(19) 【他人の顔が日焼けしているのを見て】
スキーに行って来た<u>んだろう</u>。

✳ 伝える用法

(20) 風邪をひきました。雨に濡れた<u>のです</u>。

(21) 私は国立大学を二つ受験した。当時は一期校と二期校に分かれていた<u>のだ</u>。

➡「話し手が先に言ったこと、したこと、あるいは、話し手の状態（元気がないとか、外出の支度をしているとか）に対する説明を与える」（久野暲1973）。

肯定・平叙のノダの性質

感情的な評価の対象とする

✳ **受け止める用法**

(22)　また太ったね。
(22′)　また太った<u>んだ</u>ね。

➡非ノダ文が事実を「淡々と」述べている印象を与えるのに対して、ノダ文は驚き・喜び・非難・羨望といった感情的な評価を伴ってその事柄を受け止めているという解釈になることがある。

✳ **伝える用法**

(23)　ぼく、明日デートです。
(23′)　ぼく、明日デートなんです。

➡同じく、何らかの感情的な評価を期待して伝えているという解釈になることがある。

肯定・平叙のノダ（伝える用法）の性質

話を続けるための前提知識

(24) ぼく、明日デートなんです。それでちょっと相談があって…。

➡ノダ文は「これから話を進めるために聞き手に知っておいてほしい事柄」を予め提示するような発話で使うことがある。

肯定・平叙のノダ（行為指示の用法）の性質

納得させようと働きかける

(25) よく見ていろ。

(25′) よく見ている<u>んだ</u>。

➡命令形による行為指示に比べ、「そのようにすべきこと」を納得させた上で従わせようとする態度を感じさせる。

ノデハナイの用法分類

✳話し手自身の誤解を却下する用法

(26)　おや、地震かな。いや、地面が揺れてるんじゃない。

(27) A: 昨日からずっとこのなぞなぞを考えていたんだ。
　　B: 何だか怖い顔をしてたのは、怒ってたんじゃないんだ。

✳他者について想定される誤解を却下する用法

(28) あたし、悲しいから泣いたんじゃないのよ。

(29) 私が絵を描くのは、褒めてほしいのではないし、お金が欲しいのでもないし、有名になりたいのでもない。

✳禁止の用法

(30)　その柵に触るんじゃない。感電するぞ。

ノデハナイの性質

(31)　今日はこの地区にチラシを配ることになってるけど、鈴木さんの家には行きたくないな。

(31′) ＃ 今日はこの地区にチラシを配ることになってるけど、鈴木さんの家に行きたいのではないな。

➡文脈上そのような誤解が発生する、または発生し得ると想定されるような内容で、それを却下しようという発話でなければ不自然。

ノカの用法

✳独言的な用法

(32) 祝賀会には何人ぐらい来るのかな。

(33) ここに名前を書いておけばいいのかな。

✳質問の用法

(34) 何時頃に到着されたんですか。

(35) 顔色が悪いですね。病気なのですか?

ノカ（独言的な用法）の性質

( ) 祝賀会には何人ぐらい{来るか / 来るのか}な。

( ) ここに名前を書いておけば{いいか / いいのか}な。

➡非ノダの独言的な疑問文は、その真偽判断を自ら下そうとする態度が表れる。ノカでは「今の自分には自信を持って判断できない」「断定的な判断は保留しよう」という含みが生じる。

ノカ（質問の用法）の性質

( ) A: ケーキを買って来たよ。
B: おお、どんな?
A: イチゴショートとモンブランが一個ずつ。
どっちを{食べる / #食べるの}?

() 行く？行かない？

() 行くの？行かないの？

➡聞き手に判断材料が予め与えられている場合でなければノカによる質問は不自然（唐突さを感じさせる）。

➡また、ノカ文は非ノカ文に比べて「あなたの回答で私を納得させてほしい」という態度（納得の要求）を感じさせる発話になる。

ノカ（質問の用法）の性質

() 顔色が悪いですね。病気なのですか?

➡「話し手が見、聞いたことに対する聞き手の説明を求める」。（久野暲1973）

() 電球は誰が発明しましたか。

() 太郎はなぜ引き返しましたか。

➡クイズ（あるいはアンケート）のような質問ではノカは使われない。（益岡1991など）

2. 統一的説明づけの試み

命題レベルと認識レベル

- 文の意味的な階層構造
- 命名 → 現象 → 判断 → 表現・伝達 (益岡1993)

  命題のレベル（対象領域）　モダリティのレベル（主体領域）
- 日本語の統語構造に大体反映される
- 中に生起する要素の制限に基づいて従属節を分類できる
- [発話 [**認識** 主題-[**命題**]-証拠性など]-丁寧さ-伝達態度]

  [**命題** 動作主-[動詞句]-肯否-時制など]
- そしたらノダの内容はどのレベルか。

ノダ節の中身

- 前述のさまざまな用法は、どれもノダ節の中に「何らかの認知主体における認識」が提示されている。
- 当該文脈において想定され得る、または実際に存在する、または発話後に生じることが見込まれる認識。

(0) あたし、**悲しいから泣いた**<u>んじゃない</u>のよ。
(0) **コロンブスは1492年にアメリカ大陸に到達した**<u>んだ</u>。
(0) 風邪をひきました。**雨に濡れた**<u>のです</u>。
(0) **何時頃に到着された**<u>んですか</u>。

ノダ節の中身

・ノダの内容には命題レベルの要素だけでなく、認識・判断レベルの要素が生起する。

(0) どうも太郎は具合が悪いらしいのだ。
(0) 玄関前まで追い掛けて来たそうなんです。

提案

- ノダ節内に提示されるのは単なる命題ではなく、（当該文脈における、想定上の何らかの認知主体の）**認識**である。…ということだけで全て説明できるのではないか。

- **認識**……現実の事象に適合すると思われる信念、または実現を予期・希望する事象を思い描いた考え。

- 認知主体を特定するわけではない。また、その認識が現に生じる・生じたことを直接的に主張するわけでもない。

提案

- ノダ節を肯定すること（肯定・平叙のノダ）は、そのような認識を持つことが正しいという主体的な言明である。
  - ノデハナイは認識が正しくないという言明。
  - ノカは認識が正しいかどうかの問い。
- つまりノダ表現は、**そのような認識を持つことが当該文脈において正しいかどうか**を焦点とする。

関連する先行研究

- ノダは「**既成命題**」に話し手の「主観的責任」を添えて提出する。(三上1953)
- ノダは「**いったん判断された内容**を、もう一度なんらかの判断の材料にする」。(林1964)
- 連体形で表されるのは「話し手（の主観）の責任から切り離されたところで、いわば**客体的に成り立つ判断**」。(佐治1991)

提案の続き

- 認識の正しさを焦点とする一方、**「その事柄が現実に成立するか否か」という判断**（事態成立判断）は焦点から外される。
- そのため、「その事柄が現実に成立する」こと自体が焦点である発話ではノダ文が不自然になり、非ノダ文が使われる。

焦点に関する先行研究

- ノダによる「叙述様式判断の説明」は「ある事態の存在を前提と[する]」。(益岡1991)
- 「スコープのノ(ダ)」は「事態の成立以外の部分をフォーカスにする」。(野田1997)

3. 各性質の説明づけ

肯定・平叙のノダ（受け止める用法）の性質

判断の既存性

(0)　　鳥が飛んだんだ。
(0)　　【帰り支度をする人を見て】もう帰るんだ。

直前に発生した事象をそのまま述べる場合には使われない。以前からその事象が現実に存在した場合や、意志・予定などとして定まっている場合にも使える。

(0)　　あ、雨が{降ってる / 降ってるんだ}。

ノダ文では「以前からそうだったのだろう」という態度が加わる。

✦ ノダの肯定によって或る認識を正しいものと言明していることから、その認識を導きだす判断（事態成立判断）は発話に先立って存在するものと背景的・暗黙的に了解されるため。

肯定・平叙のノダ（受け止める用法）の性質

聞き手と話し手の証拠の差

(0)　私は札幌に住んでいます。— 札幌に住んでるんですね。

(0)　【濡れて帰宅した人の姿を見て、その人に向かって】あ、雨が降ってるんだ。

話し手が聞き手より不確実な証拠による判断しか下せない場合、非ノダ文で事柄を受け止めることができない。

✦ 日本語の非ノダ文の特徴として、受け止めの用法では「他の会話参加者と同等以上の証拠で判断できる」という含みを持つ。ノダ文は事象成立判断に関与しないため、会話的な受け止めが可能。

肯定・平叙のノダ（受け止める用法）の性質

話し手の意見を差し挟まない

(0)　【機械の取扱説明書を読んで】このボタンを押せばいいんだ。

(0)　これおいしいから注文してみなよ。— へえ、おいしいんだ。

(0)　今日の運勢は最悪だって。今日は一日ついてないんだ。

ノダ文を用いると、他人の言説に対して「無批判に受け入れる」「自分の反対意見を差し挟まない」ような態度が出る。

✦ ノダ文は事象成立判断に関与しないため、話し手自身の立場での判断を回避して受け入れる表現になる。

肯定・平叙のノダ（伝える用法）の性質

判断の既存性

(0)　　僕も参加します。
(0′)　　僕も参加するんです。

非ノダ文は「発話の際に決心したこと」を述べることができる。
ノダ文は「発話以前から思い定めていたこと」として解釈される。

✦ 非ノダ文は事象成立判断を下す表現なので、発話の際の決心と解釈される。ノダ文ではその認識を導きだす判断は発話に先立って存在するものと暗黙に了解される。

肯定・平叙のノダ（伝える用法）の性質

聞き手の意見を受け付けない

(0)　【引っ越しを拒む子供が両親に対して】僕はここに残るんだ。
(0)　一般の方の立ち入りは禁止されているのです。

特に反対意見を呼びそうな事柄を伝える場合、ノダ文は聞き手の意見を受け付けない態度を感じさせる。

✦ ノダ文では事象成立判断は暗黙裏に済んだものと見なし、「そのように認識するのが正しい」ということだけを言明するため。

肯定・平叙のノダ（伝える用法）の性質

納得させようと働きかける

(0) 太陽・月・地球がこのように一直線に並ぶことによって、地球上から見て太陽が月に隠れて見える<u>のです</u>。

「納得させよう」と聞き手に働きかけるような態度。

✦ 非ノダ文が単に事柄を言明して知らせるのに対し、ノダ文は「今、聞き手がどのように認識すべきか」に踏み込む表現であるため。

✦ 或る認識を持つことの意義は文脈によってさまざまだが、そのうち主な場合が次の二通りである。

肯定・平叙のノダの性質

文脈上の疑問に説明を与える

(0)　山田さんが来ないなあ。きっと用事がある<u>んだ</u>。
(0)　私は国立大学を二つ受験した。当時は一期校と二期校に分かれていた<u>のだ</u>。

「話し手が先に言ったこと、したこと、あるいは、話し手の状態［…］に対する説明を与える」（久野暲1973）。

✦ 提示された認識を得ることで、抱いている疑問を解決するのに役立つ、という意図でノダ文が用いられたものと聞き手は解釈する。疑問の解決・納得という過程は認識的なものなので、どのような認識を持つべきかを問うことに意義がある。

肯定・平叙のノダの性質

感情的な評価の対象とする

(0)　また太った<u>んだ</u>ね。

(0)　ぼく、明日デートなんです。

驚き・喜び・非難・羨望といった感情的な評価を伴ってその事柄を受け止めている、あるいはそのような評価を期待して伝えているという解釈。

✦ 或る事柄に対して感情的な評価を下すのも認識的な過程であり、そのためにはその事柄を認識していることが必要である。

✦ このようなノダ文の意味合いは聞き手にとっては専ら推意なので、「非難するつもりは無かったのに非難のように受け取られてしまった」というような誤解を誘発することもある。

肯定・平叙のノダ（伝える用法）の性質

話を続けるための前提知識

(0) ぼく、明日デートなんです。それでちょっと相談があって…。

これから話を進めるために知っておいてほしい事柄。

✦ 。

肯定・平叙のノダ（行為指示の用法）の性質

納得させようと働きかける

(0)　よく見ていろ。

(0′)　よく見ている<u>んだ</u>。

➡「そのようにすべきこと」を納得させようとする態度。

✦ 事柄を伝える用法と同様、「どのような認識を持つべきか」に言及する用法であるため、提示された当為的な認識を受け入れさせようとする態度が了解される。

ノデハナイの性質

(0)　あたし、悲しいから泣いた<u>んじゃない</u>のよ。

(0) ＃　今日はこの地区にチラシを配ることになってるけど、鈴木さんの家に行きたい<u>のではない</u>な。

文脈上発生し得る誤解を却下しようという発話でなければ不自然。

✦ ノデハナイは提示された認識が正しくないと言明する表現なので、そのような認識を想定した上で却下するという場合にのみ用いられる。

ノカ（独言的な用法）の性質

( ) 祝賀会には何人ぐらい{来るか / 来るのか}な。
( ) ここに名前を書いておけば{いいか / いいのか}な。

非ノダの独言的な疑問文は、その真偽判断を自ら下そうとする態度が表れる。
ノカでは「今の自分には自信を持って判断できない」「断定的な判断は保留しよう」という含みが生じる。

✦ ノカ疑問文は事象成立判断を回避する表現であるから、断定できないということが意識される場合に用いられる。
（そのあと「判断できる証拠を探そう」「伝聞で確認しよう」となるかは文脈による。）

ノカ（質問の用法）の性質

( )　A:　ケーキを買って来たよ。
　　B:　おお、どんな?
　　A:　イチゴショートとモンブランが一個ずつ。
　　どっちを{食べる / #食べるの}?

聞き手に判断材料が予め与えられていない場合はノカによる質問は唐突さを感じさせる。ノカ文は非ノカ文に比べて「あなたの回答で私を納得させてほしい」という態度（納得の要求）を感じさせる発話になる。

✦ 与えられた判断材料によって、発話以降に判断されることを期待する質問の場合、その判断（事象成立判断）を焦点にした表現で訊くのが普通。ノカによる質問は「話し手がどのように認識するか」を問うものなので、納得の要求を聞き手に感じさせる。

ノカ（質問の用法）の性質

(0) 顔色が悪いですね。病気なのですか?

「話し手が見、聞いたことに対する聞き手の説明を求める」。（久野暲1973）

✦ 提示された認識の真偽（または疑問語の空隙）が確定することで、話し手の抱いている疑問を解決できるという意図が推論される。

(0) 電球は誰が発明しましたか。

クイズやアンケートのような質問ではノカは使われない。（益岡1991など）

✦ この種の質問では「話し手（質問者）がどんな認識を持つのが正しいか」は問題とされないため。

まとめ

- ノダ節内に提示されるのは単なる命題ではなく、（当該文脈における、想定上の何らかの認知主体の）認識である。
- ノダ表現は、そのような認識を持つことが当該文脈において正しいかどうかを焦点とする。
- 一方、「その事柄が現実に成立するか否か」という判断（事態成立判断）が焦点から外れる。
- という見方で結構説明できる気がする。

参考文献

久野暲1973『日本文法研究』大修館書店。

佐治圭三1991『日本語の文法の研究』ひつじ書房。

野田春美1997『「の(だ)」の機能』くろしお出版。

林大1964「ダとナノダ」『講座現代語』6、明治書院。

益岡隆志1991『モダリティの文法』くろしお出版。

益岡隆志1993「条件表現と文の概念レベル」『日本語の条件表現』
　くろしお出版。

三上章1953『日本文法研究』大修館書店。

吉田茂晃1988「ノダ形式の構造と表現効果」『国文論叢』15、
　神戸大学文学部国語国文学会。